

手塚 篤 展

Atsushi Tezuka | Facing the future

2021年11月21日(日曜)～23日(火曜)

午前10時～午後4時 [作家在廊]

主催：石束(いしづか)クリニック・入場無料



小田急線「喜多見駅」南口



世の中はコロナ禍真っ只中、私を絶望から脱出させてくれた大恩人の飲み屋さん達は、最大の被害者となり、今尚、深海に沈んでいます。私の絵のテーマは、一貫して自分自身の『絶望からの脱出』と救ってくれた『飲み屋さん達への感謝』です。

私を救ってくれた夜の光が、再び戻ることを、そして輝き続けることを祈って、絵を展示させていただきます。

手塚 篤

密集を回避するために事前にお電話にてご予約の上ご来場ください。

詳細は石束クリニックのホームページをご参照ください。

☎03-6411-8739

石束クリニック 検索

「手塚篤展開催ご挨拶」

このたび、喜多見・心療内科画廊のこけら落としとして「手塚篤展」を開催できることを心よりの喜びといたします。

手塚氏と知り合ったのは2017年で、手塚氏は2015年に発症したギランバレー症候群の後遺症で四肢麻痺になりリハビリ中でしたが、将来を悲観しておられました。

歩くことも不可能で電動車いすを使い、手は箸を持つこともできずフォークでなんとか食事をされていました。誰も深い憂うつに沈むだろう状況でした。

多少のお力添えをしたのですが、持ち前の自己治癒力にて精神的に回復されて会社の理解も得て復職されました。しかし相変わらず手足はご不自由なままです。

その間に手塚氏がiPadを使って絵を描いておられるのを知り、その作品の出来栄を拝見して新鮮な驚きを感じたのを今でも思い出します。

不自由な手を使ってこれほどまでの作品を作ることができるのかと手塚氏の才能に感嘆するとともに、iPadという新しい機器の持つ深い可能性に驚いたものです。

その後手塚氏はその作品を行きつけのBarや居酒屋さんで展示されました。2018年には東京都が主催する「東京都障害者総合美術展」に入選もされています。

日々障害を持つ人とお付き合いしている私としては、心療内科画廊での初めての展覧会は手塚氏の個展をおいて他にないと確信し、この度の開催にいたりました。

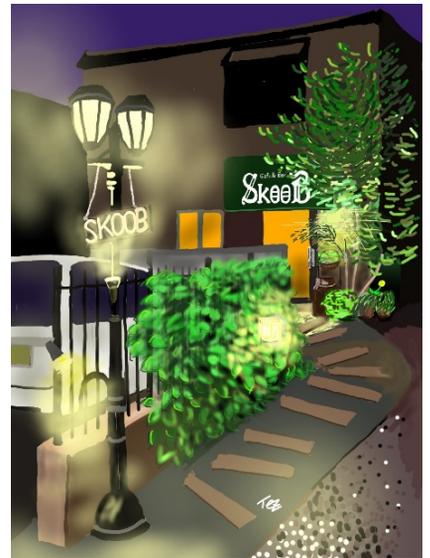
高度の障害を持ちながらもこのような自己表現をしている人がおられることを是非皆さまに知っていただきたいと思っております。

令和3(2021)年8月吉日

画廊主:主催者 石東嘉和



手塚 篤



世田谷区喜多見にある心療内科・精神科の石東(いしづか)クリニックの待合室を画廊に見立てて展覧会を不定期に開催します。「心療内科画廊」の名称は1963年～1966年に新橋の宮内内科診療所に実在した「内科画廊」へのオマージュです。「内科画廊」は赤瀬川原平氏ら当時の現代美術家の展覧会が開催された伝説の画廊です。残念ながら、石東は当時小学生にて後ほど伝説を知り、憧憬の念を持ち続けて来ました。今回、旧知の2人のアーティスト(塩崎由美子氏・小林誠氏:共に武蔵野美術大学出身)の協力を得て当画廊を発足する運びとなりました。なお、当画廊は営利目的は一切ありませんので、作品購入に関与いたしません。作品購入ご希望の方は直接作者さんと交渉してください。



石東(いしづか)クリニック ☎03-6411-8739
東京都世田谷区喜多見8-18-12 コーポ真木4階